

持続可能な奈川地区推進協議会



# ながわ“種まき”交流会 報告

in ウッディ・もっく



2023年5月27日（土）13:00～16:00

## 開会のごあいさつ



持続可能な奈川地区推進協議会  
勝山会長

持続可能な奈川地区推進協議会の勝山会長より、開会のあいさつをいただきました。

本日は臥雲市長と山崎さん、そして小学生から年配の方まで幅広い年齢層の人に参加してもらえて嬉しく思います。

今、奈川では大きな課題が3つあります。1つは野麦峠スキー場。2つ目は奈川小中学校。そして3つ目は担い手不足の問題です。

以前より「ふるさと奈川をおこす会」で話し合いを開始し、奈川地区の働き盛り世代や松本市のすべての関係部門に関わってもらう形でこの協議会が発足しました。私たちが奈川地区の将来を考えるタイミングとして、今年が勝負の年だと思っています。課題はいくつかありますが、何をいつまでにどのようにしていくのか、みなさんと一緒に検討を進めていきたいと思っています。

みなさんにご協力いただきながらよりよい奈川を実現していきたいと思っています。よろしくお願いします。

## これまでの取り組みについて

協議会のこれまでに取り組みについて、松本市奈川地区地域づくりセンター高山センター長から説明がありました。

令和3年9月に「持続可能な奈川地区推進協議会」が発足し、10年後の奈川の将来像を共有し、具体的な取り組みを推進するための支援や体制づくりを進めてきました。昨年度は課題検討部会の開催や地域のみなさんへのインタビュー調査、保育園や市営住宅を実験的使って意見交換する「奈川ぐるぐるカフェ」や、大原クラインガルテンの管理棟で「奈川ぐるぐるカフェ交流会」を行うなど、さまざまな検討の場をつくってきました。現在は、これまでの意見をもとに、奈川地区での新たなアクションを考える「奈川ぐるぐるカフェ作戦会議」を開催しています。また、松本市役所内でも「関係課長会議」の定期開催や、職員による応援体制として「庁内奈川応援チーム」が発足しています。



松本市奈川地区地域づくりセンター  
高山センター長



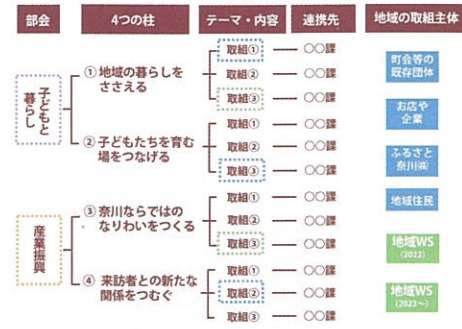
## 「持続可能な奈川地区推進計画」原案について

現在策定中の「持続可能な奈川地区推進計画」の原案について、策定の支援をしているstudio-Lの醍醐さんからその概要について説明がありました。

今回の計画の副題は、「みかたがふえる奈川に」です。「みかた」という言葉には、「見方」と「味方」という2つの意味があり、「見方」を変えることで課題さえも新たな資源と捉えたり、地域の外の「味方」を増やすことで活動の応援や支援をしてもらえたりする関係性をつくっていくという思いを込めています。

さらにこの計画では、課題検討部会や奈川ぐるぐるカフェなど、奈川にお住まいのみなさんや奈川に関わり合いのあるみなさんから寄せられた声をもとに、①地域の暮らしをささえる②子どもたちを育む場をつなげる③奈川ならではのなりわいをつくる④来訪者との新たな関係をつむぐという、4つの柱を掲げています。その柱に含まれるテーマから地域の取組みが生まれ、その取組みを市の連携先がサポートしていくことで持続可能な奈川をつくっていきます(図参照)。

6月中旬のパブリックコメントを経て修正をし、今後の完成を予定しています。その後みなさんのお手元への配布も予定していますので、ぜひご覧いただけたらと思います。



図：4つの柱と取組みの関係

## 臥雲市長ごあいさつ

奈川地区は、30年後に松本市全域で起こりうる課題に今直面している地区だと思っています。だからこそ、今の奈川の課題を松本市全体の課題として捉える必要があります。これまでの奈川の取組みで少しずつ参加者の裾野が広がり、若い人たちが行動を始めています。この動きをさらに広げていくため、たとえ奈川に定住していなくても、何かしら関わりを持って奈川ファンになる人たちの増やしていくことが大切でしょう。本日が、奈川のすべての世代の人たちが、同じ方向を向いて行動を起こしていくスタートになればと思います。



臥雲市長

## 講演「住民主体の地域づくりとコミュニティデザイン」

studio-Lでは、これまで350ぐらいの地域に関わってきました。メディアで取り上げられることもあるので、私たちが関わったからその地域が元気になったと思う方もいるかもしれませんが、実際はそうではありません。私たちはお手伝いをしているだけで、その地域が元気になったのだとすれば、それは住民の方々の取組みと、役所の支えがあってこそその成果なのです。奈川の取組みもさらにおもしろいものになり、若い人たちを中心にここに住んでみたいと思ってもらえる地域になるように願っていますし、それに向けて全力でお手伝いしたいと思っています。



ゲスト 山崎亮氏  
studio-L代表  
関西学院大学建築学部教授  
/コミュニティデザイナー/  
社会福祉士  
地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる

## ＜海士町プロジェクト＞

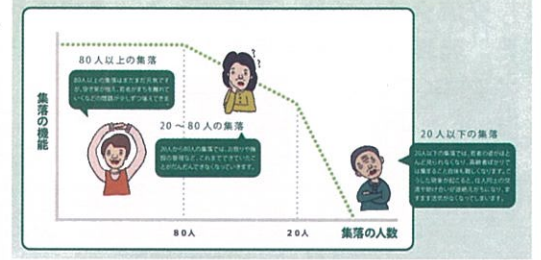
2008年から5年間ほどお手伝いした海士町は、人口2300人の島根県にある離島です。島内で頑張る人がいる一方、島には帰ってこないという人もいます。海士町の島づくりを進めるための総合計画では、役場や専門家が決めたことを進めていくだけでなく、地域の人たちが考えたプロジェクトも一緒に進めていく方針になりました。

海士町ではチームが4つできました。ワークショップは正式には全8回でしたが、その合間にチームだけで40回以上話し合ったり、島内の宿泊施設で2泊3日の合宿をしたりしました。今回の奈川と同じようにチームの発表会も行い、その結果「島の幸福論」という総合計画ができあがりました。その計画では役場が進めていくことが掲載された本編と、住民が進めていく24プロジェクトが掲載された別冊をつくりました。住民のプロジェクトは、1人でできること、10人でできること、100人でできること、1000人でできることに分けられています。1000人でできることは、役場に主導してもらいますが、100人でできることは役場と住民で、10人でできることはチームで進め、1人でできることは個人が今すぐ進めていくことにしようとして話し合いました。



## ＜つぎ町プロジェクト＞

徳島県つぎ町は、傾斜40度以上のとても山深いところにも集落があります。ヒアリングを通して、人が減ってもうまく暮らしていくアイデアを各集落がもっていることがわかりました。この地域では80人を切ると集落維持が難しくなり、さらに20人減るとさらにできないことが増えていきます。今80人の集落が今後60人になるときに向けて、今現在60人の集落に暮らしの知恵を聞き引き継いでいくための「山ぐらしの知恵」という冊子をつくりました。さらに集落同士がつながるしくみがつくられると新しい展開も生まれ、つぎ町でも、異なる集落同士で特産品をつくったりするという活動も生まれました。



## 奈川ぐるぐるカフェで生まれたアイデア発表

### 奈川ぐるぐるカフェとは？

2022年11月から保育園と市営住宅を実験的に集いの場に、奈川の現状やこれからについて意見交換をスタートしました。その後、大原クラインガルテンで交流会を実施したり、奈川のみなさんの思いをもとに新たなアクションを考える作戦会議がスタートしています。この日は、この作戦会議で誕生した5つのアイデアのうち4つについて、チームメンバーから発表がありました。



青空マルシェ&マーケット

奈川ならではの魅力を知り、遊んで食べて交流する。大人も子どもも地域の人でも地域外の人でもワクワク笑顔になれる時間を提供するマルシェを企画しています。奈川産野菜の販売やフリーマーケット、交流や自然との触れ合いができます。8月20日10時～16時に、野麦峠スキー場で開催決定！仲間や出店者を募集しています。



奈川の暮らしと歴史のアウトドアツアー

奈川に移住して、奈川の生活の豊かさを感じました。街では味わうことができない魅力を自分たちの言葉で伝えていきたいと思い、奈川でアウトドアツアーの会社を立ち上げました。ツアーのお手伝いや、情報発信、事務所のディスプレイに使えるような古道具などのご提供など、さまざまな形でのご協力をお待ちしています。

## 軒下ベンチプロジェクト

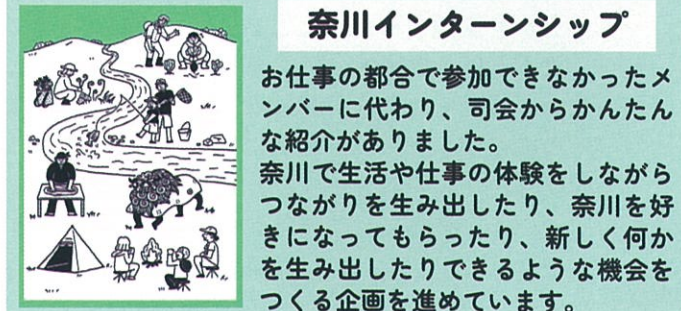


私たちは、奈川地区内で人と人が会って話したり、集ったりすることに着目しました。ベンチは人と人をつなぐシンボルですが、立派でなくてもいい。それを奈川のあちこちに設置していきたいと思っています。無理なく続ける活動として、まずはお寺やパン屋などに置き始めました。ぜひ座りに来てください。



奈川のあれこれ情報発信

奈川では日々様々な取組みが行われていますが、奈川の住民にさえも、その活動が知られていないことがあります。そこで、様々な媒体で発信されている情報を一元化し、誰もが簡単にアクセスできるしくみをつくりたいと考えています。活動に参加する人が増え、活動や知恵や情報が循環していくきっかけをつくりたい。



奈川インターンシップ

お仕事の都合で参加できなかったメンバーに代わり、司会からかんたんな紹介がありました。奈川で生活や仕事の体験をしながらつながりを生み出したり、奈川を好きになってもらったり、新しく何かを生み出したりできるような機会をつくる企画を進めています。



## 交流タイム

交流タイムでは、青空マルシェ&マーケットチームが地域みなさんに声をかけておやつを用意してくれました。発表があった活動アイデアについての質問や応援の声が飛び交い、にぎやかな時間になりました。



## トークセッション「奈川地区の持続可能な地域づくりに向けて」 臥雲市長×山崎亮さん

### 「それなら！」派と「とはいえ」派

**市長** 先程の山崎さんの海士町の事例で、1人でできること、10人でできることなど人数で分けて考えると、直ちにやるべきことや、行政でやるべきことが見えてくると感じました。

**山崎** 私は事例の話をしたときの反応には、2種類あると感じています。「それなら自分はこうやる！」と動き出してしまうような人と、「とはいえ」と立ち止まる人です。前者のようなちょっと“おっちょこちょい”な人たちが、実は地域を変えているのではないのでしょうか。今日提案してくれた5チームの人たちはそれなら！と奈川を変えていく人たちのだろうし、「僕はこれができるよ」とシールを貼ってくれた人たちもそれを支えていってくれるのだらうと思います。

**市長** 「とはいえ」は、役所の体質ですね。私は松本市役所から「とはいえ」派を減らしていきたいと思います。だからこそ「それなら！」派の人たちが地域にたくさんいてほしいですし、それに影響を受けて役所の職員にも変わってほしいです。



### 「奈川の暮らしと歴史のアウトドアツアー」について

**市長** 上高地でもなく乗鞍でもなく、どうして奈川なのかについてもっと聞きたいと思いました。奈川の歴史や自然を誰よりも詳しく、誰よりもストーリー性を持って語れるようになっていただきたいです。

**山崎** ツアーの情報を発信をしていくときの弊害として、自分で発信すると、説明のあとに私のツアーに参加してくださいと書くことになり、誘導だと思われることもあります。だからあえて別の人に取材してもらって、もっと知りたい場合はこちらへと誘導してもらいたいのではないのでしょうか。今回生まれた情報発信チームなどと組むんだりすると、おもしろいことになりそうですね。

### 「奈川のあれこれ情報発信」について

**山崎** 信濃毎日新聞社（以下、信毎）の本社建設のお手伝いさせていただいた際、1階に設置した情報局を新聞社の分室にして、地域活動を応援するしくみにしました。信毎は、地元情報の多さが大手との差別化につながるの、地元の市民活動を自分たちで応援し、応援した活動が良いものになったら取材するというサイクルを実践することにしました。地域の小さな活動を自分たちで応援して、情報源を地域に生み出してしまうという方法も、情報発信チームの未来としてあり得るでしょう。さらにYouTubeを活用して、今日来ている人やその友人・家族など、周りの人たちにチャンネル登録するところから協力してもらうことで、その収益からチームが取材に行くときのガソリン代を捻出できるようになるかもしれません。みんなで情報発信チームを応援することで、チームは自分たちの活動資金をYouTubeから得ながら奈川を有名にしていこうという、そのようなサイクルを生むことができると思います。

**市長** 松本市のYouTube「シンカチャンネル」など、松本市の各種メディアと連携しながら進めてほしいですね。

## 「青空マルシェ&マーケット」について

**山崎** 神戸の六甲山でマルシェを開催している友人がいます。お店を出す人は、リュックサックに入る分だけしか出品できません。車の方が効率的に多くの商品を持っていけるのですが、会場は登山をしないと到達できない場所にあります。マルシェに来る人も空のリュックサックを持って登らなければいけないので、そんなめんどうなルールがあるので、1年目は出店者も参加者も少なかったそうです。しかし今では活動がじわじわと広がり、出店者は抽選になるほど人気になっています。リュックサックである必要はありませんが、何か変わった仕掛けがあるほうが、わざわざそこへ行くという動機になります。どんなマルシェなのかを個人が語るができる仕掛けがあることが、そこへ行く動機や価値につながるのではないのでしょうか。



## 「軒下ベンチプロジェクト」について

**市長** 松本の中心市街地でもベンチを置く取組みを始めています。市内に増やしていきたいので、奈川がそれを牽引していく存在になってほしいと思います。「日本一ベンチが多いまち」になるかもしれませんね。

**山崎** ベンチも参加型でつくるといいですね。さらに使える材のサイズを決め、おしゃれで素人でも作れるデザインを募集することもできそうですね。おそらく多くのアイデアが全国から届くと思いますが、それをプロに審査してもらったりし、毎年ベンチのデザインが募集されていることが全国のデザイン系の学生たちに伝わると「ベンチの町」として徐々に浸透していくでしょう。そうすると、ベンチの上に載せられる分しか販売できない「ベンチマルシェ」ができるかもしれませんね。ベンチマルシェの開催時に来年のベンチの審査をすることもできるかもしれませんし、奈川チャンネルでその経過を取材し、発信することもできます。今回発表されたアイデアを組み合わせるだけでも、奈川オリジナルのものができそうです。

## 楽しさと愉しさ

**山崎** 「儲かる」かどうかよりも「たのしい」かどうかを重視しようということ、これまでの奈川のワークショップでも話していると思います。私は「たのしい」という言葉を「楽しい」と「愉しい」に分けて使っています。前者は、誰かに楽しませてもらうもので、飲み屋に行くことやアウトレットでの買い物など、消費することで生まれ、支払いがあるため働く時間を減らすことができません。後者は、竹ひご1本で100通り遊びを生み出すような、お金を払わなくても自ら愉しさを生み出すことなので、「おもしろがり偏差値」が上がっていきます。そうすると、お金が不要なため働く時間をある程度コントロールでき、まちづくりや仲間づくりに時間を割くことができます。経済が回らなくなるのではないかとされることもありますが、それは結局「自分に収入が入らなくなるのが心配」と言っているのと同じことです。収入が必要になるのは楽しみを買いたいからです。楽しみを買うことを少し減らすと、人生観が変わり、友だちが変わり、明日誰と何をやるのが変わる可能性があります。自分の中から愉しみを生み出せる人が地域にいと、友だちが増えそうだし、そういう人たちと付き合っていきたいと私は思います。そういう人たちとなら、きっとお金あるなしに関わらず愉しいんだろうなと思います。

**市長** 松本は愉しみをずっと歴史的に生み出してきた町だと思います。そして結果として生業にも繋げてきました。みなさんも奈川で愉しさを見出し、その結果、人とお金が繋がれば、持続可能な奈川が生み出せるのではないのでしょうか。

**山崎** 松本民藝の同人は、仕事の中にある喜びや愉しさをずっと忘れないようにしてきました。今の時代だからこそ、忘れてはいけない愉しさがあり、それらをみなさんはうまく生活の中に取り込んでいってくれるのではないかと、期待しています。

**市長** 愉しさで奈川小中学校も盛り上げてほしいです。地域の人たちが関わることで、松本で一番小さな奈川小中学校が松本一、日本でも稀有な「愉しさ」がある学校として、教育委員会も関わりながら進めてほしいと思います。







## 今後に向けて

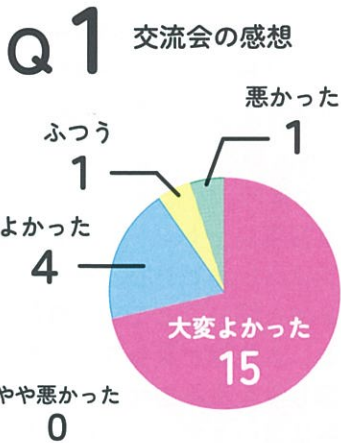
奈川地区地域づくりセンターの古畑さんから、これから取組みを進めていく4つの分野についてご紹介いただきました。

- 1. 持続可能な奈川地区推進計画の策定**  
パブリックコメントを実施しています（現在は終了）。奈川のすべての世代の人たちが同じ方向を見て進めていくための計画になるので、みなさんからのご意見を頂いた上で、策定をしていきます。完成は7月以降を予定しています。
- 2. 地域ワークショップの継続開催**  
本日発表した企画は、今後も継続して適宜成果や課題を検証していきながら進めていく予定です。来月以降のワークショップでは新たに参加者を募る予定にしていますので、私もやりたい、お手伝いできるよという方は、ぜひご参加ください。
- 3. 子どもと暮らし部会**  
小中学校や保育園を軸に、奈川での子育てについてが奈川のみなさんにとってどうありたいのか検討を進めるプラットフォーム会議を開催しながら、地域のみなさんにも情報共有していきたいと考えています。
- 4. 産業振興部会**  
観光交流施設の今後について、検討進め、方針を定めていきます。



これらは現在作成中の計画が策定された上で、それに基づきながら課題解決に向けてみなさんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。ご協力よろしくお願いします。

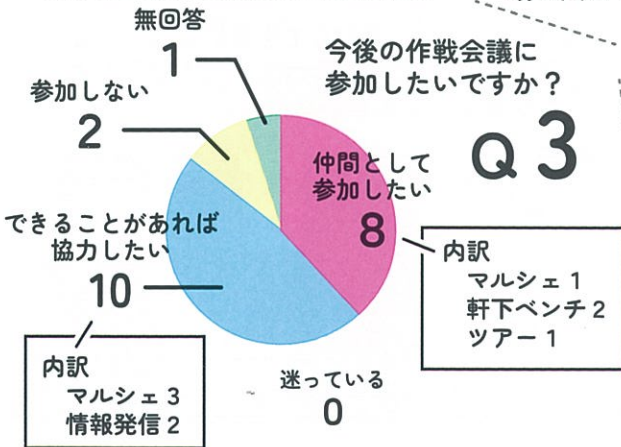
## アンケート集計結果 アンケートにご協力いただいた方からの声をご紹介します。



**講演** 一番印象に残っていること **Q2**

「とはいえ」でなく「それなら」で地域づくりに取り組みたい/他の地域のように奈川でも、協力する人が増えてほしい/1人で、10人で、100人で、1000人でできること/これを機に行動していくことが必要/他の人にも聞いてもらい、今年1年の活動を愉しくできればいい/今の自分に何が出来るかを具体的に考え実行してみたい/1人でできる事、みんなで協力してできる事、1つ1つの提案について考えるという事。自分たちのできることをそれぞれが考えて進んでいること

みなさんの取組みがよく分かった/奈川地区にベンチを設置し、人々の交流を促進する。憩いの場とする/発表された方の表情やお話のうまさに驚いた。とてもたのしかったです!/地域の人たちが楽しそうにアクションの発表をしていた/だいい屋さんの活動に特に期待/応援や一緒に参加したいという声が届きに/テーマ別アイデアが良かった。小さな取組みを多くの人に知ってもらう



**交流会** 自分の提案（観光大使の利用）を市長に伝えられた

**トークセッション** 今まで参加したことがあるトークとは全く違い、多くの刺激を受けた/人が関わることによって、一つのアイデアが無限に広がることを体験できた

**全体** まあよいイベントだった